

# 希望の船

We love BIWAKO

「みずうみに学んで世界の明日をひらく人」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール

〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号

<https://uminoko.jp/>

## 新たな「びわ湖学習」

【所長 安江利光】

学習船「うみのこ」の船上では、毎回「びわ湖学習」を行います。フローティングスクールでは「びわ湖学習」として、「魚の観察」「ヨシの活用」「水のよごれ回復実験」「ロープワーク」など多くのプログラムを用意しています。

「びわ湖学習」の内容は、学校が自校での取組に見合ったものを選びます。人気が高いものは、「プランクトン観察」や「びわ湖の水の透視度調査」です。これらの学習は、フローティングスクールができた頃、何十年も前から続いている学習です。一方、近年、新たに開発した学習もあります。「びわ湖の深呼吸実験」

「びわ湖のプラスチックごみ調査」などです。「びわ湖の深呼吸実験」は、2019年、2020年に観測史上初めて琵琶湖の全層循環が起きず、湖底深くに生息する「イサザ」や「アナンデルヨコエビ」などが酸欠により大量に死んでいるというニュースから開発しました。上の写真のように、水温ごとに水の色を変え、冷たい水が流れ込むと水全体が混ざり合うことを実感できる実験です。青色、黄色、赤色の3層にきれいに分かれた水を見た子どもたちは、水温が違くと混ざりにくい水の性質に驚き、地球温暖化の影響の大きさに気付きます。

「びわ湖のプラスチックごみ調査」は、近年問題となっているマイクロプラスチックを調査する活動です。ピンセットを使って、砂浜に打ち上げられたプラスチックを拾い集め、実体顕微鏡で観察して、それが何のプラスチックであったか想像します。生活の中に溢れているプラスチックが知らない間に環境に大きな負荷をかけていることを実感できます。

琵琶湖は県民の誇りです。40年ほど前、琵琶湖の水質が急速に悪化し、アオコや淡水赤潮が毎年のように発生していました。琵琶湖の水質悪化を間近で見ていた滋賀県の人々は、リンを含む洗剤を使わないように呼びかけるいわゆる「せっけん運動」と呼ばれる市民運動を起こしました。「石けん運動」の市民らの要求によって、行政は「琵琶湖条例」をつくり、リンを含む合成洗剤の販売、使用等の禁止、窒素やリンの工場排水規制を行いました。この運動は日本全国に先駆けて

行われたもので、琵琶湖が身近にあり、その変化に毎日触れ、環境に対する意識が高いからこそ生まれたものだと考えます。環境問題は、時代によって変化していきます。フローティングスクールでは、その時々課題を敏感に察知し、学習プログラムに組み込んでいきます。

持続可能な社会を創造していくことが求められる現在、子どもたちが、環境意識の高い滋賀県民であることを誇りに思い、次世代を担う人として成長してくれることを願います。



「びわ湖の深呼吸実験」の水槽

長浜の浜で採取したプラスチック

